霧島市立医師会医療センター　No.179　平成25年11月
薬剤部 DI ニュース

★医療用麻薬　オキファスト注について★

Q1、オキファスト注は、どんなタイプの薬剤ですか？

・オキシコンチン錠、オキノーム散と同じ、オキシコドン塩酸塩水和物を主成分とする注射用製剤です。
・経口のオピオイド製剤の服用が困難な時や、急速な鎮痛が必要な時、有用性を期待出来ます。

Q2、オキシコドン製剤の特徴はどのようなものですか？

・オキシコドンはμオピオイド受容体作動薬で、モルヒネと比較すると、副作用は少ないとされています。
・オキシコドンは腎機能低下症例においても、ほぼ問題なく使用出来ます。

≪参考：オピオイドμ受容体の生理作用≫

受容体		生理作用
μ	μ_1	鎮痛、嘔気・嘔吐、多幸感、掻痒感、縮瞳、尿閉
	μ_2	鎮痛、鎮静、呼吸抑制、身体・精神依存、消化管運動抑制、鎮咳

Q3、投与量の決め方はどのようになりますか？

①オピオイドが投与されていない場合

・1日量7.5～12.5mgを目安に投与を開始します。開始後は痛みの強さに応じて投与量を調節します。

②オキシコンチン錠から切り替える場合

・オキシコンチン錠からオキファスト注に切り替えるときの目安は3/4量となります。

≪切り替え量の目安≫

オキシコンチン錠(mg/日)	20	40	60	80	100
	↓	↓	↓	↓	↓
オキファスト注(持続mg/日)	**15**	**30**	**45**	**60**	**75**

経口製剤の次回投与予定時刻から、オキファスト注の投与を開始します。

③フェンタニル貼付剤から切り替える場合

≪切り替え量の目安≫

デュロテップMTパッチ(mg/3日)	2.1	4.2	8.4	12.6
フェントステープ(mg/日)	1	2	4	6
定常状態における推定平均吸収量(mg/日)	0.3	0.6	1.2	1.8
	↓	↓	↓	↓
オキファスト注(持続mg/日)	10～15	20～30	40～60	60～90

剥離後、フェンタニルの血中濃度が適切な濃度に低下するまでの時間を空けてから、オキファスト注の投与を開始します。

(薬剤部　荻尾)